

## 令和4年度（2022年度）主要施策の概要

新年度も、新改革プランのもと箕面のさらなる飛躍発展に向け、大胆かつ着実に改革を進めていきます。

### 1. 自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進

【予算額 18,754千円】

行政手続きのオンライン化など、より充実した行政サービスを提供するとともに、電子決裁システムの導入などによる業務の効率化を進めます。

### 2. 公立幼稚園・公立保育所の再編

【予算額 19,757千円】

令和5年4月の稲保育所の民営化に向けた準備や、「（仮称）ちゅうぶ認定こども園」の令和6年4月のオープンに向け、かやの幼稚園及び萱野保育所の施設改修のための実施設計を行います。

### 3. プレミアム付商品券の発行

【予算額 76,300千円】

プレミアム付商品券「小さなお店応援チケット」第3弾、第4弾を実施し、市内の中小企業者・小規模事業者、市民を応援します。

### 4. ささえあいステーションの強化

【予算額 46,181千円】

地域共生社会の実現に向けて、「ささえあいステーション」を現在の8小学校区から全14小学校区に拡大します。

### 5. 公民連携による観光戦略の策定

【予算額 11,149千円】

観光客の減少など観光における諸課題の解決や、さらなる観光振興に向けた指針を「（仮称）公民連携観光戦略会議」において、事業者などと意見交換を行いながら、箕面市観光協会とともに策定します。

### 6. 遺跡の保護・復旧や遺跡を巡るイベントの開催

【予算額 12,236千円】

経年劣化や荒廃から遺跡を保護・復旧するとともに、観光客やハイカーなどを対象とした遺跡巡りのイベントを実施することにより、地域活性化や観光振興、健康増進などを推進します。

### 7. 新病院の建設と運営にかかる方針決定

【予算額 5,500千円】

地域医療の中核として、質の高い医療を持続的かつ安定的に提供できる病院をめざし、引き続き、新病院の運営手法などについて検討を行い、運営と建設の方針を決定します。

### 8. 公園施設長寿命化計画による公園のリニューアル

【予算額 699,988千円】

小さな子どもから高齢者まで楽しめる公園をめざし、老朽化した遊具の更新や公園トイレのリニューアルを行います。

### 9. 北大阪急行線延伸整備

【予算額 6,515,978千円】

令和5年度の開業に向け、高架上の軌道の敷設や駅部の建築工事などに着手します。また、第三者による評価制度を活用し、設計積算の妥当性の評価を受けながら、事業費の執行管理についても厳正に進めます。

### 10. 新駅周辺の整備

【予算額 1,462,203千円】

新駅への交通アクセスを確保するための都市計画道路萱野東西線東部地区の全線供用を開始します。また、箕面萱野駅北側の交通広場の整備や、箕面船場阪大前駅周辺における歩行者デッキやエントランスの整備などを行います。

### 11. 箕面船場地区における産官学民連携によるまちづくり

【予算額 8,976千円】

【債務負担行為 257,275千円】

2025大阪・関西万博の共創パートナーとして、実証フィールドの提供など、各種取り組みへの支援や、多文化共生の推進による文化芸術・国際交流の取り組み、「健康寿命の延伸、ヘルスケア拠点」の創出など、企業や関係機関などと連携しながら、箕面船場地区の発展をめざします。

### 12. 「（仮称）支援教育充実検討委員会」による方針の策定

【予算額 1,392千円】

支援教育の充実に向けて、学識経験者も入った「（仮称）支援教育充実検討委員会」を立ち上げ、支援教育のあるべき姿について方針を策定します。

### 13. いじめ防止対策にかかる取り組みの強化

【予算額 3,289千円】

いじめの未然防止や早期発見のため、子どもの気持ちをキャッチできるシステム「まいにち天気」を導入します。また、「いじめ等調整委員会」のさらなる活用により、いじめ事案の対応強化を図ります。

### 14. （仮称）幼児教育センターの設置

【予算額 5,712千円】

保育・幼児教育の質をさらに高めるための拠点として、国の交付金などを活用し、「（仮称）幼児教育センター」を整備します。センターでは、研修会の実施や幼児教育サポーターの派遣、カリキュラムの策定など、保育・幼児教育の充実を図ります。

### 15. 青少年教学の森野外活動センターのリニューアル

【予算額 200,000千円】

民間事業者のノウハウを活用し、より魅力あふれる施設にリニューアルするため、令和4年夏の先行リニューアルオープンに向けた整備を進めます。

### 16. 箕面新稲の森の利活用

【予算額 99,800千円】

※ R3年度からの繰越

令和6年春までのオープンに向け、事業者による整備に先立ち、市がアクセス道路などを整備します。